

# 道徳科学習指導案

主題名 「だめなものはだめだよ」〔学指要領：A 善悪の判断、自律、自由と責任〕

令和7年11月7日（金） 第3校時 1年教室  
東吾妻町立東小学校1年5名 指導者 大竹 恵

## I 主題設定の理由

### 1 価値観

善悪の判断は、私たちの行動や選択に大きな影響を与える。何が正しく、何が間違っているのかを見極める基準は、文化や時代、個人の価値観によって異なる。価値観の多様な社会を主体的に生きていく上での基礎を培うためには、人の意見に左右されることなく、自ら正しいと判断し行動することが重要である。また、自由とは、自分の意志で選択し行動することだが、その自由には責任が伴う。自由を大切にしながら自律性や責任を自覚していくことが重要である。

低学年のこの時期に、積極的に行うべきよいことと、人間としてしてはならないことを正しく区別できる判断力を養うことは大切なことである。その能力を生活の中で生かしながら、よいと思ったことを実践できたときのすがすがしさを味わわせたい。

そして今後、この内容項目は、第3学年、第4学年において「正しいと判断したことは、自信をもって行うこと」へと発展する。

### 2 児童観

この年齢の子供たちは、友達に親切にすることを「よいこと」、信号を無視することを「悪いこと」といった、日常的で分かりやすい善悪の判断をすることができる。しかし一方で、自己の好奇心や欲求に基づく行動の中で、善悪の判断に迷う場面も少なくない。また、集団生活の中では、何が「よいこと」か「悪いこと」かを自ら判断できず、友達の行動を模倣してしまう傾向も見られる。実際、日頃の子供たちの様子からも、誤った判断をしてしまう場面がたびたび見受けられる。

このようなことから、子供たちが善悪の判断を的確に行えるようになるためには、正しい判断ができた際に得られる心の安定や満足感、安心感といった内面的な充足を実感できるようにすることが重要であると考えられる。さらに、「してはならないことはしない」という自己抑制の意識を育むことで、他者の行動に影響されることなく、自らの考えに基づいて行動を選択する力、すなわち自律性を培うことが求められる。

本学級は5名（うち1名は特別支援学級在籍）の少人数学級である。入学前のこども園から続いている人間関係があり、現在も大きなトラブルはなく、互いに仲良く生活している。ただし、児童はまだ自己中心的な考え方をしやすい時期にあり、他者への関心が十分とは言えない。

そのため、日々の生活や学習の中で、「よいこと」「悪いこと」を具体的な場面を通して考えさせ、自分の言葉で思いや考えを表現することを大切にしている。また、友達との関わりを通して、自分の行動が相手にどのような影響を与えるのかを感じ取り、善悪の判断や行動の仕方を学べるような活動を積み重ねている。

ただし、少人数であるため、様々な価値観や考え方に触れる機会が少なく、善悪の捉え方が狭くなりがちである。一人一人が自分の行動を振り返り、よりよい生き方を自ら考えられるような学習や生活指導の工夫が必要であると考えられる。

### 3 教材観 教材名「にんじんばたけで」（出典：しょうがくどうとくいきるちから1 日本文教出版）

三羽のうさぎがいました。おいしそうなにんじんを見つけました。食べてもいいのかしら…と悩んでいます。

『にんじんばたけで』は、空腹という身近な欲求をきっかけに、「だめなことをしそうな自分」をうさぎに重ね、善悪の判断の大切さに気付くことができる教材である。うさぎたちの迷いや行動を動作化し、話し合うことで、「だめなものはだめ」という価値観を自分事として実感できるようにさせたい。また、最後の場面を想像させることで、正しいことをすることの気持ちよさやすがすがしさにも気付かせたい。

## II 本時の学習

- ねらい 三羽のうさぎがにんじんを食べようか迷っている場面を動作化し、自らの体験と場面を重ね合わせて考え、表現することを通して、誰でも判断することに迷うことがあることに気づき、よいと思うことをよく考えて行おうとする判断力を育てる。
- 展開

主な学習活動 <b>主な発問（◎中心発問◇補助発問）</b> 予想される児童の意識【S】	○指導上の留意点
1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。 (5分) (1) よいと思うことと悪いことを想起する。 S：友達に優しくする。正しいことをする。 困っている人を助ける。 (2) よいことと悪いことで判断を迷った事を想起する。 <めあて> よいかわるいかまよったときどうするか。	○よい、悪いが判断しやすいものと、迷うものがあることに気付かせるように問う。 ○これまでの経験の中であったことを思い出すように問いかけ、問題意識をもたせるようにする。 ○児童の問題意識を基に、学習のめあてを設定する。
2 教科書の教材文の範読を聞く。 (5分) 3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち交流する。 (15分) (1) にんじん畑での場面を動作化する。 ゆきちゃん・びよんちゃんを動作化する。終わった後に、それぞれ感想を発表し合う。 「誰か食べているよ。」 「そうだね。みんなも食べているからぼくたちもいいよね。」 S：・うさぎはにんじんが食べたい。 ・看板があるから食べるのをやめた。 ・食べかすがあるから、食べようか迷っている。 ◇みんな食べてるから食べてもいいよね。 S：・でもだめじゃないかな。 ・食べてもいいと思う。 ◇誰も見ていないから食べてもばれないよね。 S：・そうだね、きっとばれないよね。 ・そうかな。でも、だめじゃないかな。 (2) 教材文の最後を聞く。 すがすがしい顔のうさぎの挿絵を見る。 S：・うれしそう ・笑ってる ・食べなくてよかった。	○動作化した後に、最後の場面を想像させるため、最後の場面は提示しない。 ○人間関係を確認したり、状況を確認したりするための基本的な発問をする。 ○児童の発言から、話の流れが分かりやすくなるように板書する。 ○三羽のうさぎたちの心情を理解するために動作化をする。 ○動作化後にそれぞれの役になった児童の感想を聞き、見ていた児童の感想も交流することで、多面的・多角的な見方や考え方を引き出せるように促す。 ○動作化や補助発問により、三羽のうさぎが困っていることに気付かせるように促す。 ○よいことをしてすがすがしい気持ちになったうさぎたちに気付くように、挿絵を見る。
◎三羽のうさぎはなぜ食べるのをやめられたのだろうか。	○交流して気付いたことや考えを自分の言葉で発表できるように促す。
(3) 三羽と同じように相談して考える。《交流》 S：・きまりを守ることは大切だから。 ・誰かが大事に育てたものだから。 ・みんながやっているからやってもよいとは限らないから。 ・よいことをすると気持ちがよいから。	○補助発問により「たとえ一人でも、じっくり考えてよいと思うことを行おうと判断する」という道徳的価値を深められるように問いかける。
◇びよんちゃんが「そうかな」と言わなかったら、食べちゃったんじゃないの。 S：・一人でもじっくり、立ち止まって考える。 ・食べたいけど、やっぱり勝手に食べちゃだめだから食べない。	○本時の学習のめあてを再確認し、導入のエピソードをもう一度考えさせて、自分自身の行動を見つめ直させる。
4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。 (10分) 5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えの振り返りをする。 (10分)	○自分の経験など具体的に表現できるように、個別に声掛けをする。(ノート)
<振り返り> S：よいか悪いかをよく考えて選ぶ。 だめなことはしちやいけない。 迷ってもよいことをする。	

### ◆評価の視点

意見交流から、「善悪の判断、自律、自由と責任について、多面的・多角的に考えている」姿を見取る。  
 振り返りから、「善悪の判断、自律、自由と責任について、自分自身との関わりの中で考えている」姿を見取る。